

六甲山自然案内人の会 平成23年3月度定例観察会報告書

実施日：平成23年3月13日（日）

コース：鈴蘭台～菊水山～烏原貯水池～石井町

テーマ：大楠公に因む菊水山を歩く（3班担当）

参加人員：ビジター23名、会員24名、合計47名

当日の配付資料：コース地図、植生リスト、ダム施設等解説（末尾に一部改変して添付）

【観察記】

昨日までの寒さも和らぎ、本日は絶好のハイキング日和となった。しかし、集まった皆さんはやや冴えない表情。11日に発生した日本史上最大規模の東北関東大震災のテレビ映像が、17年前の神戸の記憶と重なった方が多かったからだろうか。少々重たい気持ちを引きずりながら、4班に分けて観察会に出発。

1. 受付場所から菊水山山頂まで

受付場所左手にはコブシ。この蕾は太陽が当たる南側に面したところの膨らみが強く、そのため方角を知る手がかりとなる。ハイキングコースに入ってウワミズザクラ。サクラの仲間といってもソメイヨシノなどとは異なり、穂状に花を付ける。冬芽の基部に大きな落枝痕が目立ち、枝全体としてごつごつした感じに見える。この遊歩道沿いに多く見られた植物は、このウワミズザクラの他、樹皮が特徴的なリョウブ、カラスザンショウ、ルーズソックスの先に芽をつけたようなタカノツメ、コシアブラ、裸芽で冬を頑張ったムラサキシキブ、常緑のイヌツゲ、イヌガヤ、ヤブニッケイ、ヒサカキ、アオキ、アセビなど。

一口メモ：イヌツゲ

イヌツゲは俗に「よめのさら」と呼ばれる。どのような漢字を当てるか2つの説があるようだ。1つは「嫁の皿」。これは、嫁にはイヌツゲのような小さい皿で飯を食わせればよいということに由来。もう1つは「夜目の皿」。「夜目」とは、ネズミの目が夜光ることから、ネズミが食事をしているときに使う皿との解釈。後者の説は恐妻家の解釈か？

車道と合流してから、カツラ、クマノミズキ、ヤマウルシ、ヌルデなど、比較的樹高の高い植物を観察。植栽されたソメイヨシノには、小枝が叢生する病気「さくら天狗巢病」がみられた。この病気を退治するには、天狗巢の部分切除して薬を塗るしかない。トイレ休憩した場所では、マルバアオダモの冬芽が間近に観察できた。登山記帳所付近には、コハウチワカエデとイロハモミジが並んで生えていた。冬芽による区別は、前者の目の基部には白色の襟巻きがあり、後者にはそれがないことである。赤色をしたサザンカの花、

白色のアセビの花を眺めながら車道を進み、鉄塔手前で脇径のハイキングコースに入って菊水山頂へ。最終グループが11時50分到着。

2. 菊水山からの眺望

菊水山からの眺望は今回の見どころの1つである。西を臨めば手前から高取山、高尾山、鉄拐山、鉢伏山、明石海峡大橋、淡路島、眼下に神戸市街、東を臨めば摩耶山と、そのやや北方に摩耶山天上寺の屋根を小さいながらも確認することができた。

一口メモ：湊川の戦い

新幹線の車内放送でお馴染みの鉄道唱歌に次のような歌詞がある。

♪七度生まれて君が代を守るといいし楠公の碑高き湊川流れて世々の人ぞ知る♪

鎌倉幕府を倒すという目標は同じだったが、武家中心の政治再編を目論んだ足利尊氏と、天皇中心の政治を奪回しようとした後醍醐天皇方との象徴的な戦いが湊川の戦い。山陽道を東進してきた足利軍を楠木・新田連合軍で迎え撃つ。しかし多勢に無勢、新田軍は北陸に敗走。楠木正成はこの地で最後を迎えるに当たり、弟の正季と「七度人と生まれて国賊を滅ぼし国に報いる」と誓い合ったとされる。石碑は江戸時代に徳川光圀が作らせたもの。湊川神社は明治5年の創建。

3. 菊水山から下水処理場へ

山頂からの急坂を慎重に下る。このコースは全山縦走コースの逆をたどっている。登ってくる人の息は絶え絶えだ。植物観察ができなかった人のために、目に付いた植物を書き留めておく。常緑のシャシャンボ、ヤブコウジ、赤い新梢が目立ったネジキ、枯葉をつけているヤマコウバシなど。ゴルフ場が左手に見えてからシュロ。古くなった葉の先端が折れて垂れ下がるのがワジュロ、そうでないのがトウジュロと区別される。このコースにあるのはワジュロ。葉はハエ叩きやシュロ箒に加工されたり、幹は釣鐘をたたく棒に利用されたりしている。下りきったところで、紅白のウメ、ツバキ、サザンカなどの植栽された植物。ウメの裏手にビワ、ナナミノキ、下草としてホトケノザ、ヒメオドリコソウの花が見られた。

一口メモ：ツバキとサザンカ

両者の区別点はいろいろある。花で見ると、花全体が落下するのがツバキ、花びら1つ1つ落ちるのがサザンカ。葉では、葉裏に小さな黒点があり葉脈が透けるのがツバキ、黒点がなく葉脈が透けないのがサザンカ。

神鉄のトンネルの上を歩いて山を下り、右手に治水目的で作られた石井ダム。川沿いにはシナサワグルミの大木が並ぶ。やがてコーヒーの香り漂う洒落た喫茶店に行き着くが、直ちに下水処理場の匂いに置き換わる。

4. 下水処理場から烏原貯水池へ

下水処理場入り口にはジュウガツザクラの花が見られた。しばらく清流沿いを進むと、烏原貯水池上流に作られた貯水池関連施設群がある。いずれも明治34年に完成、現在は兵庫県の近代化遺産に指定されている。それぞれの名称、役割、大きさなどは配布資料（頁末に添付）のとおり。

烏原貯水池の北岸の遊歩道を進む。湖面にはオシドリ、キンクロハジロ、ヒドリガモ、ホシハジロ、オオバン、カワウ、カイツブリなど。左手にユーカリの大木が1本。「その昔、神戸市がオーストラリアのコアラを誘致するため、試験的に栽植し・・・」などという眉唾な説明に思わず納得してしまいそうなほどの迫力だ。

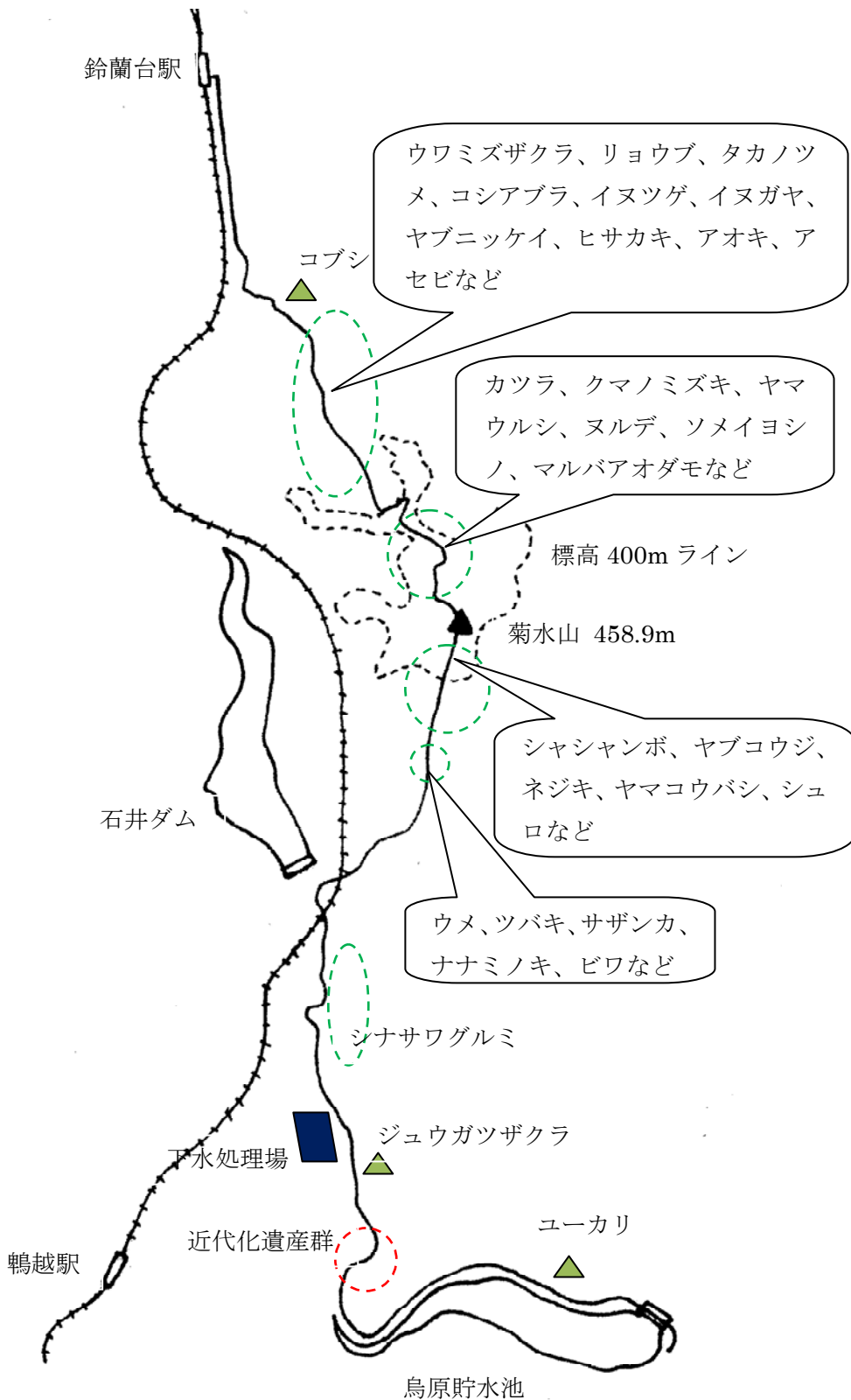
4つの班が集合後、烏原貯水池の歴史、神戸市の水道事情など配布資料（頁末に添付）に基づいて説明し、本日の観察会の全行程を終了。15時00分、来月の観察会のお知らせをして解散。

【後記】

「早春に咲く木々の花、草花」を今回の見どころの1つとしたが、樹木ではアセビ、植樹されたウメ、ツバキ、サザンカ、草本ではホトケノザ、ヒメオドリコソウなどに限られてしまい、看板にやや偽りがあった感も否めない。しかし、もう1つの見どころ「菊水山からの絶景」は堪能いただけたと思う。3班の企画に協力いただいた会員の皆様に感謝申し上げます。

3月定例観察会資料

コース案内



植生リスト（行程順に主なもの）

1～53：受付から山頂まで、54～85：山頂から烏原貯水池まで

	植物名	科・属		植物名	科・属
1	コブシ	モクレン科 モクレン属	44	イロハモミジ	カエデ科 カエデ属
2	ウワミズザクラ	バラ科 サクラ属	45	カヤ	イチイ科 カヤ属
3	リョウブ	リョウブ科 リョウブ属	46	ウメモドキ	モチノキ科 モチノキ属
4	ヤブツバキ	ツバキ科 ツバキ属	47	ソメイヨシノ	バラ科 サクラ属
5	イヌザクラ	バラ科 サクラ属	48	コシアブラ	ウコギ科 ウコギ属
6	ヤマザクラ	バラ科 サクラ属	49	ヤマツツジ	ツツジ科 ツツジ属
7	タカノツメ	ウコギ科 タカノツメ属	50	スノキ	ツツジ科 スノキ属
8	マルバアオダモ	モクセイ科 トネリコ属	51	カゴノキ	クスノキ科 ハマビワ属
9	シラカシ	ブナ科 コナラ属	52	コウヤボウキ	キク科 コウヤボウキ属
10	ヤブニッケイ	クスノキ科 ニッケイ属	53	コナラ	ブナ科 コナラ属
11	ムラサキシキブ	クマツヅラ科 ムラサキシキブ属	54	シャシャンボ	ツツジ科 スノキ属
12	ツリバナ	ニシキギ科 ニシキギ属	55	イタビカズラ	クワ科 イチジク属
13	カクレミノ	ウコギ科 カクレミノ属	56	ネジキ	ツツジ科 ネジキ属
14	ヤブコウジ	ヤブコウジ科 ヤブコウジ属	57	ムベ	アケビ科 ムベ属
15	アクシバ	ツツジ科 スノキ属	58	ネズミモチ	モクセイ科 イボタノキ属
16	タムシバ	モクレン科 モクレン属	59	ガマズミ	スイカズラ科 ガマズミ属
17	アカメガシワ	トウダイグサ科 アカメガシワ 属	60	リンボク	バラ科 サクラ属
18	アオキ	ミズキ科 アオキ属	61	ハゼノキ	ウルシ科 ウルシ属
19	エゴノキ	エゴノキ科 エゴノキ属	62	ナツハゼ	ツツジ科 スノキ属
20	カラスザンショウ	ミカン科 サンショウ属	63	ネズミサシ	ヒノキ科 ネズミサシ属
21	ツルアリドオシ	アカネ科 ツルアリドオシ属	64	クヌギ	ブナ科 コナラ属
22	コツクバネウツギ	スイカズラ科 ツクバネウツギ属	65	マサキ	ニシキギ科 ニシキギ属
23	シロバナウンゼンツツジ	ツツジ科 ツツジ属	66	ノイバラ	バラ科 バラ属
24	ウリハダカエデ	カエデ科 カエデ属	67	ワジュロ	ヤシ科 シュロ属
25	ヒノキ	ヒノキ科 ヒノキ属	68	モモ	バラ科 モモ属
26	イヌビワ	クワ科 イチジク属	69	ウメ	バラ科 サクラ属
27	クロモジ	クスノキ科 クロモジ属	70	サザンカ	ツバキ科 ツバキ属
28	ヒメヤシャブシ	カバノキ科 ハノキ属	71	エノキ	ニレ科 エノキ属
29	カツラ	カツラ科 カツラ属	72	カキノキ	カキノキ科 カキノキ属
30	クマノミズキ	ミズキ科 ミズキ属	73	ナナミノキ	モチノキ科 モチノキ属
31	ゴンズイ	ミツバウツギ科 ゴンズイ属	74	ハチク	イネ科 マダケ属
32	シロダモ	クスノキ科 シロダモ属	75	ネザサ	イネ科 マダケ属

33	クサギ	クマツヅラ科 クサギ属	76	シナサウグルミ	クルミ科 サウグルミ属
34	ニガキ	ニガキ科 ニガキ属	77	ヌルデ	ウルシ科 ヌルデ属
35	コバノミツバツツジ	ツツジ科 ツツジ属	78	キョウチクトウ	キョウチクトウ科 キョウチクトウ属
36	モチツツジ	ツツジ科 ツツジ属	79	トウネズミモチ	モクセイ科 イボタノキ属
37	ソヨゴ	モチノキ科 モチノキ属	80	十月桜	バラ科 サクラ属
38	ウラジロノキ	バラ科 ナナカマド属	81	イボタノキ	モクセイ科 イボタノキ属
39	ヤマウルシ	ウルシ科 ウルシ属	82	ノグルミ	クルミ科 ノグルミ属
40	シャリンバイ	バラ科 シャリンバイ属	83	ムクノキ	ニレ科 ムクノキ属
41	ヤマハゼ	ウルシ科 ウルシ属	84	ユーカリ	フトモモ科 ユーカリ属
42	クサイチゴ	バラ科 キイチゴ属	85	ソシンロウバイ	ロウバイ科 ロウバイ属
43	コハウチワカエデ	カエデ科 カエデ属			

各種解説

1. 菊水山 (参考：神戸市ホームページ)

標高 458.9m の山。昭和 10 年大楠公 600 年祭を記念して山腹に菊水の形に松を植えたことから菊水山と呼ばれるようになる。古くは都市部と旧山田村との境界で大角木（おおつのぎ）と呼ばれていた。



2. 石井ダム (参考：日本ダム協会ホームページ)

着工 1972 (昭和 47) 年、竣工 2008 (平成 20) 年
 堤高 66.2m、堤頂長 155m、総貯水容量 2200 千立方メートル
 治水とレクリエーションの目的を持った多目的ダム。

3. 鳥原貯水池 (立ヶ畑ダム) (参考：日本ダム協会ホームページ)

着工 1901 (明治 34) 年、竣工 1905 (明治 38) 年
 堤高 33.3m、堤頂長 122.4m、有効貯水量 1213 千立方メートル
 水道専用ダムとして我が国 4 番目に古い。このダムが造られたとき、ここにあった鳥原村が水没。当時は 98 戸、人口 414 人。この村では線香の原料粉末を生産、品質の良さから全国から需要があったとのこと。村人たちは、水没で離村するに当たり、その足跡を残すため、線香作りに使っていた石臼を護岸のため約 90m にわたり 160 個を一行に並べて残す。

4. 神戸市の水道事情 (参考：神戸市水道局ホームページ)

神戸市の 1 日に必要とする水量は約 90 万立方メートル。布引・鳥原・千苺の各貯水池 (ダム) から約 20 万立方メートルを供給し、約 3/4 に当たる 67 万立方メートルを琵琶湖・淀川水系を水源とする「阪神水道企業団」から水を購入している。

5. 烏原貯水池とその上流部の建築物(参考：兵庫県の近代化遺産(兵庫県教育委員会編)、国土交通省政策研究所ホームページより)

- ① 分水堰堤 (明治 38 年竣工) : 洪水による濁水を分水するための施設。堰長 10.75m、半径 18.18mの円弧状、高さ 5.45m。
- ② 放水門 (明治 38 年竣工) : 上は操作櫓台。櫓台の壁は印度式粗石工で装飾される。
- ③ 縮切堰堤 (明治 38 年竣工) : 放水路の水量を調節するための施設。堰長 13.63m、高さ 7.74m。
- ④ 放水路 (明治 38 年竣工) : ダムの余水吐き規模が小さいため、貯水池上流部から直接ダム下流に放流するための施設。全長 1250.3mで開渠と隧道からなる。
- ⑤ 量水堰堤 (明治 34 年竣工) : 堰長 21.21m、半径 22.72mの円弧状、高さ 3.63m。
- ⑥ 立ヶ畑堰堤 (明治 38 年竣工) : 堤体を半径 181.8mの円弧状に湾曲させ優美な姿。4 門の余水吐きはルネサンス風の組み方をしたアーチ状に構成、デザインに工夫。
- ⑦ 取水塔 (明治 38 年竣工) : 貯水池の最深部に設置。デザインはばらばらの大きさの石を組み合わせた印度式粗石工が用いられる。

